

聴覚障害者 災害時支援パンフレット

～情報とコミュニケーションを～



見た目ではわからない「聴覚障害」。

地域のなかでは、聞こえないために周囲とコミュニケーションが取りにくく、
孤立してしまいがちです。

聞こえないことは、災害時には、いのちに関わる深刻な問題になります。

しかし、皆さんのちょっとした気づきや配慮があれば、

聴覚障害者が情報から取り残されることなく行動できます。

災害が起きても聴覚障害者が地域社会で安心して皆さんとつながり、

助け合い、ともに暮らせるように、

皆さんに知っていただきたいことをこのパンフレットにまとめました。

聴覚障害とは

耳から脳に音声情報を伝える経路に障害があるために、聞こえにくい、または聞こえない状態をいいます。その状態はひとりひとり、さまざまです。生まれつき、あるいは子どものころに聞こえなくなった人、聞こえていたけれど事故や病気が原因で聞こえなくなった人、加齢とともに聞こえづらくなる人もいます。補聴器や人工内耳を使って、音声を聞き取ることができる人や、補聴器や人工内耳を使っても聞き取ることが難しい人まで、聞こえ方も人によってまちまちです。

見た目ではわかりにくく、誤解されることもあります。聞こえないために、大切な情報が得られないことがあります。特に災害時は、聞こえないために避難情報がわからず、いのちに関わることもあります。

宮城県には身体障害者手帳の交付を受けている聴覚障害者は、約6,000人（令和3年3月）います。身体障害者手帳がなくても、聞こえづらさを感じている人は、もっとたくさんいます。聴覚障害に加えて高齢だったり別の障害を併せもつ人もいます。

主なコミュニケーションの方法

コミュニケーションは人間関係を築くうえで、とても大切です。現在の補聴器や人工内耳は、すべての音を聞き分ける機能が備わっていないため、建物内の反響や周囲の雑音の影響で補聴器や人工内耳の効果がさがることもあります。そのためいつどのような場面でも安心してお互いにコミュニケーションできるように、いろいろな方法を組み合わせることで伝わりやすくなります。

手話

手の動きのほか、目・眉の動きにも意味があります。

日本語や英語のように独自の文法体系のある言語です。

手話ができる聴覚障害者は、全体の約20%といわれています。



筆談

紙や手のひら、地面に書いたり、スマートフォンなどに入力するなど、文字で伝える方法です。簡潔にわかりやすく、がポイントです。

「いつ」「どこで」などを箇条書きで書くと伝わりやすいです。



読話と口話

口のかたちを読み取ります。

口元が見えるように、相手に顔を向けてはっきりと、少しゆっくり話します。



身振り手振り

方向や対象物を指差したり、からだの動きやジェスチャーを使って伝えます。表情をつけるとわかりやすくなります。



こんなときに困ります

私たちの暮らしの中には「音」がたくさんあります。聴覚障害者は「音」の情報に気づきにくいいため、日常生活のさまざまな場面で不便さを感じています。

● 挨拶や呼ばれたときに気づかないことがあります



● 検査の指示がわかりません



● 補聴器や人工内耳をつけていても、会話が全部聞き取れないことがあります



● テレビに字幕や手話通訳がないと、内容がわかりません



● 電車やバスの放送が聞こえません



● 夜中に停電になると、手話や筆談が見えません



● 車のクラクションや自転車のベルが聞こえません



● 家庭用警報機や家電のブザーがわかりません



新型コロナウイルス感染症と聴覚障害者

相手の表情や口のかたちを読み取れることが、聴覚障害者のコミュニケーションではとても大切です。新型コロナウイルス感染拡大によってマスク着用が当たり前になりました。感染症の予防には欠かせないマスクですが、聴覚障害者にとって表情や口が見えず音声も聞き取りにくくなります。「マスクを取ってください」と頼みづらいこともあり、大きな壁となりました。

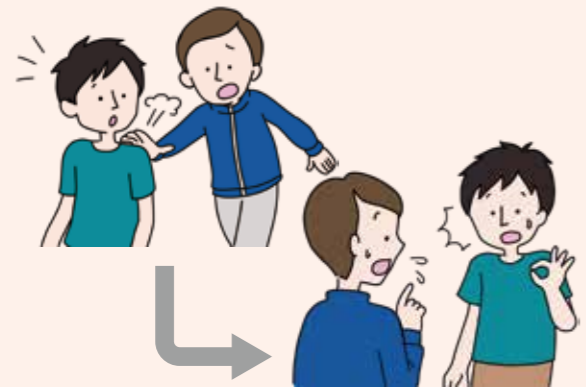
コミュニケーションがとりにくい場合は、筆談をしたり、フェイスシールドや透明の仕切りを作るなどの対応を試みましょう。マスク着用でも抑揚をつけてゆっくり話すとよい場合があります。



災害が起きたとき



呼びかけても振り向かなかったり、避難情報に気づいていなかったら、聴覚障害者かもしれません。



肩を軽くたたき、正面に回って、短く簡単に話してください。伝わらないときは、筆記やスマートフォンの文字で伝えてください。

逃げるとき



どこに避難(移動)したらいいか、またどのよう行動したらいいか、周囲の様子だけでは判断できないことがあります。



災害発生の場所ではなく避難する方向を指差したり、走るジェスチャーなどで避難(移動)することを伝えてください。

情報を伝えるとき



視覚情報だけでは周囲に今何が起きているかわからないことがあり、適切な判断・行動ができないことがあります。



地図や写真などを示すほか、要点を箇条書きしたり、スマートフォンなどの画面に文字を入力して見せてください。

誘いあって訓練を



地域の避難訓練は聞こえる人ばかりで、孤独や不安を感じます。参加をためらってしまうことがあります。



思い切って、笑顔で声をかけてください。知っている人がいると不安が和らぎます。お互いに行えることがわかると安心します。

津波が来る!? 東日本大震災と聴覚障害者(名取市関上 渡辺征二さん)

2011年3月11日午後2時46分、今までに経験したことのないような大きな揺れ。倒れた家具や壊れた食器の片付けをしていたら、近所に住む兄が、血相を変えて飛び込んできました。「つなみ! つなみ!」と言われても、すぐに何のことかわからないまま、腕を引っ張られ引きずられるように車に乗り込みました。高い場所を目指して走り始めた車の後ろから、黒く荒々しい波が迫ってきました。波に押され、高速道路上に上がることができましたが、震えが止まりませんでした。もし兄が駆け付けてくれなければ、命を落としていたかもしれません。



筆談の「コツ」があります

- 〈質問は答えやすいように〉
 - ✗ どこも痛くないですか?
 - 痛いですか? どこ?
- 〈ていねいに書くより、必要なことを簡単に〉
 - ✗ 間もなく13時に食事が配給されます
 - 13時に食事が来ます
- 〈漢字を使う〉
 - ✗ きゅうすいしゃが3じにくるそうです
 - 給水車、3時に来ます

音声認識や手書きができるアプリもあります

スマートフォンのメモアプリやメールなどは、聴覚障害者とのコミュニケーションに活用できます。さらに、音声認識や手書きアプリなど、あらかじめインストールしておく、とっさのときに便利です。

誰が聴覚障害者かわからない



たくさんの方がいる中で、音への反応が周囲よりも遅い人がいたら、聴覚障害者かもしれません。

聞こえにくい

書いてほしい



受付で、聞こえの状況や、コミュニケーションの方法を把握して、できるだけ配慮をお願いします。

見えない...



暗いところでは、コミュニケーションがとりにくくなります。明るいうちに、聴覚障害者を把握してください。また、懐中電灯やランタンも備えておくとよいです。

誰が支援者かわからない



ガムテープに太い油性ペンなどで「運営スタッフ」などと大きく書き、胸と背中に貼ります。「手話できます」や「看護師」などその場ですぐに準備できます。目印があることで、声をかけやすくなります。

あったら便利! 避難所に備えてほしいもの

- 太い油性ペン
- 筆談できるボード(ホワイトボードや筆談器など)
- コミュニケーションボード
- 懐中電灯・ランタン
- ガムテープ(紙などを貼り付けるため)
- 用紙



聞こえないことを示すアイテムを用意しておくことも方法のひとつです。ただ、周囲に示したくない人もいます。

呼びかけは文字も一緒に



プラカードのように文字を提示するとわかりやすいです。補聴器や人工内耳は電池が必要ですが、電池がなくなっても文字で確実に情報が得られると安心します。



聴覚障害者がいる場所を決めておきましょう。プライバシーに配慮しつつも避難所からの情報や動きが視覚的にわかるような場所だとよいでしょう。メモを渡して伝えることができ、伝えもれを防止できます。



聴覚障害者も「できること」はたくさんあります。手伝ってほしいことは、遠慮しないで伝えてください。

避難訓練には、手話通訳や要約筆記を



市町村の事業で、手話通訳者や要約筆記者を派遣する事業があります。訓練のときに正しい知識を身につけられるよう、聴覚障害者に呼びかけをしてください。



様子がわからないと、参加しづらいことがあります。地域に聴覚障害者がいたら、避難訓練に参加するよう、直接誘ってください。



聴覚障害に加えて高齢だったり別の障害もあったりなど、特別な支援が必要な場合があります。「要支援者名簿」に登録するかどうか、受けたい支援は何か、聴覚障害者本人と相談をしてください。

新しいつながり方もあります

●電話リレーサービス

通訳オペレータが、手話・文字と音声とを電話で双方向につなぐサービスです。



問合せ先：一般財団法人日本財団電話リレーサービス

●遠隔手話通訳サービス

感染症の流行や災害時など、手話通訳者の同行が困難な場合に、タブレットなどを使って手話通訳を利用できるサービスです。

※お住まいの市町村の障害福祉担当課へお問合せください

聴覚障害についてお気軽にご相談ください

「こんなときどうしたら…?」「聴覚障害について教えてほしい」「聴覚障害と防災対策を知りたい」など、聴覚障害に関するさまざまな相談に対応しています。

■宮城県聴覚障害者情報センター(愛称:みみサポみやぎ)



〒980-0011 仙台市青葉区上杉3丁目3-1 みやぎハートフルセンター1階

TEL 022-393-5501 FAX 022-393-5502

Mail info@mimisuppo-miyagi.org

HP <http://www.mimisuppo-miyagi.org/>



みみサポみやぎ

検索



- ホームページで聴覚障害に関連した情報を発信しています



- 県内各地で聴覚障害者や支援者が交流できるサロンを開いています



- 町内会などの団体を対象にした「出前講座」があります



- 手話通訳者や要約筆記者を養成しています



- 聴覚障害に関する相談に、手話や筆談で対応します



- 県内の聴覚障害当事者団体や支援団体を紹介しています

■手話通訳者や要約筆記者を派遣しています

聴覚障害者が利用できる、市町村の「意思疎通支援制度」を利用する方法や、主催者が費用負担して手話通訳や要約筆記を準備する方法があります。

〈みやぎ通訳派遣センター〉

TEL FAX 022-393-5504・022-393-8715

Mail miyagi.haken4023@gmail.com



みやぎ通訳派遣センター

検索

令和3年度聴覚障害者支援のための理解促進事業(宮城県委託事業)

[制作] 宮城県聴覚障害者情報センター／支援パンフレット作成検討委員会

[発行] 令和3年12月(令和7年7月改訂)

[イラスト] 加藤 彩香

[製本・印刷] 株式会社ビー・プロ

[問合せ] 宮城県聴覚障害者情報センター 〒980-0011 仙台市青葉区上杉3丁目3-1 みやぎハートフルセンター1階

TEL:022-393-5501 FAX:022-393-5502 Mail:info@mimisuppo-miyagi.org